

会 議 録

会 議 名	平成25年度旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成25年11月7日(木) 9:30~11:40
開催場所	いなべ市北勢市民会館 視聴覚室
出席者	<p>【委員(出席)】 11名 丸澤敏彦、池田秀夫、岩崎恭典、市川栄司、小澤和茂、近藤利彦、佐藤秀子、児玉正光、太田憲明、水野 章、三林孝夫</p> <p>【委員(欠席)】 3名 岡本恒一、岩田英郎、羽場文彦</p> <p>【いなべ市(事務局等)】 10名 副市長、企画部長、総務部長、福祉部長、健康こども部長、教育部長、都市整備部長、建設部長、農林商工部長、広報秘書課主事(若手企業人)</p> <p>【東員町(オブザーバー)】 7名 建設部長、健康保険課長、教育総務課長、学校教育課長、社会教育課長、政策課長、政策課課長補佐</p> <p>【三重県(オブザーバー)】 3名 三重県地域連携部地域支援課地域支援班主査、 三重県桑名地域防災総合事務所地域調整防災室地域防災課長、 三重県桑名地域防災総合事務所地域調整防災室地域防災課主幹</p> <p>【事務局(いなべ市)】 3名 企画部次長兼政策課長、政策課課長補佐、政策課主任</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. いなべ市副市長あいさつ 2. 委嘱状交付 3. 新任委員紹介等 4. 座長あいさつ 5. 講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療について 6. 質疑応答 <p>～休憩～</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年度取組み事業の評価について ・ 若手企業人地域交流プロジェクトの取組み経過報告 ・ 歴史ある街並み活性化事業の取組み経過報告 ・ 平成25年度定住自立圏等推進調査事業の先行事例の取組み経過報告 ・ 平成25年度員弁連合消防総合防災訓練の取組み報告 8. 共生ビジョンの改訂について 9. 第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンについて 10. 意見交換会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談会次第 ・ 懇談会名簿、事務局・オブザーバー名簿及び座席表 ・ 資料1 平成24年度事業取組み経過報告書 ・ 資料2 若手企業人地域交流プロジェクトの取組み経過報告等 ・ 資料2-1 平成25年度員弁連合消防総合防災訓練【員弁1300年事業】 ・ 資料3 平成25年度旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン改訂(案) ・ 資料4 第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン策定スケジュール <p>※後日配布資料：旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン(平成25年11月改訂版)</p> <p>◎講演会パワーポイント資料</p>

議 事 概 要

※いなべ市副市長あいさつ

※懇談会委員、事務局及びオブザーバー自己紹介

※座長あいさつ

～ 講 演 会(地域医療について) ～

講師

三重県桑名保健所 所長 長坂 裕二 氏

※共生ビジョン：生活機能の強化にかかる生活分野「医療」

◎パワーポイントにより講演

【座長】

長坂所長の経験談、医療制度改革と地域医療の推進や団塊の世代が後期高齢者となる2025年までにさまざまな制度改革が必要であることなどの講演、旧員弁郡定住自立圏の圏域におけるいなべ総合病院を中心とした地域医療や在宅医療についての講演、行政の仕組みづくり、地域で支え合う仕組みづくり及び専門家との連携課題についての講演に対しての質疑を求める。

【委員】

在宅介護の盲点は、老老介護であり、「救急(99)介護」ということで「だいふくの会」で議論させていただいている。これは、老老介護しているうちに介護する側が倒れ病院に救急車で搬送されるということや、 $9 \times 9 = 81$ で80歳代まで介護が続くと非常に過酷であり大変問題であることからである。

このことから、講演にもあったように、地域で支える仕組みづくりや介護施設などのサポートが必要となるが、具体策はあるのか。

【講師】

医療と介護のプロが行っても足りない部分は多くあり、市民活動団体のネットワークを活用して、何が必要で何が足りないのかを明確にし、住民に発信することで、団塊の世代の中で地元の地域活動に興味のある方々の力を得られると考える。

また、宮崎県でホームホスピスという取組みあり、患者さんと在宅のお風呂に行って過去を振り返った話などを聞き、本人の承諾があれば、亡くなった後、聞いた話を手作りの本にして遺族に手渡すといった活動などがある。これは、行政や介護・医療では到底できない市民活動ならではの活動であり、このような地域支援活動が重要であり必要であることを説明。

【委員】

医療の流れとして、病院の中で診断を受けて治療する形のインホスピタルの流れで戦後から取組まれている。

それが、阪神大震災移行、病院に来る前に患者をどの様に搬送、診察して命を救うためにどうすべきかのプレホスピタルが議論され、取り組まれている。

先ほど長坂所長から講演いただいたのは、病院で治療後、病院から次のところでどの様にサポートしていくかのホストホスピタルの話であった。時代も変化し、死を迎えるにあたり、自身がどの様な終末期を迎え他界したいのかの本人の覚悟が必要であり、その光景を目の当たりにする家族がどのように支えて行くかが問題であることから、もう一度、その様な教育を行う必要があり簡単ではないことなど、今後の課題を含めた講演をいただいたと感じました。

【座長】

専門家だけでは支えきれないことから、介護する家族の負担が多くなり、このことから、介護する家族をサポートする地域の仕組みづくりが必要であると感じた。

包括ケアシステムは、そういった内容を含んでの2025年までの制度整備だろうと思うので、第2次共生ビジョンにおいては、プロの仕組みを地域で支える取組みも検討していただきたい。

～ 休 憩 ～

～ 報 告 事 項 ～

【座長】

次第「7. 報告事項」について、事務局より報告を求める。

【事務局】

資料1「平成24年度事業取組み経過報告書」について説明。

資料2「若手企業人地域交流プロジェクトの取組み経過報告等」について説明。

資料2-1「平成25年度員弁連合消防総合防災訓練【員弁1300年事業】」について説明。

【座長】

報告事項「資料1」、「資料2」及び「資料2-1」についての質疑を求める。

～ 共生ビジョンの改訂について ～

【座長】

次第「8. 共生ビジョンの改訂」について、事務局より説明を求める。

なお、本共生ビジョン改定(案)については、委員の審議を行い可決又は否決とする旨を説明。

【事務局】

資料3「平成25年度旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン改訂(案)」について説明。

【座長】

共生ビジョンの改訂(案)「資料3」についての質疑を求める。

【委員】

「資料3」P9の「コミュニティバス事業」について、地域公共交通の改定案があったので、質問するが、11月23日にオープンするイオンへの乗り入れはあるのか。

【オブザーバー】

現在、コミュニティバスは、南北線が運行されており、イオンモールの進入口の5mほどの所にバス停(歌舞伎公園)があり、オープン当初については混雑が予想されることから、当面の間は、乗り入れ予定がなく、現在のバス停を利用していただく旨を説明。

しかし、ある一定の期間で落ち着いたら、イオンモールの中に入ることについての協議は、事業者と行っている旨を説明。

なお、東員駅～イオンモール～山城駅間を三岐鉄道が定路線バス(シャトルバス)を1回200円で11月19日から1月初旬まで1時間当たり2便、その後、1時間に1便で運行する旨を説明。

【委員】

三岐鉄道が運行するバスは、東員駅からイオンモールまで1区間200円とのことだが、コミュニティバス1回100円との差額に対する補助は考えているのか。

【オブザーバー】

コミュニティバスは、1回100円で運行しているが、収支の採算は取れていない。このことから、民間バス利用者に対する差額補助は考えていない旨を説明。

また、三岐バスは、東員駅からイオンモールまで約5分で運行することやコミュニティバスは、東員駅から在来地区を経由してイオンモールまで10分ほど掛かるが、料金は100円であることを説明。

【委員】

高齢者が出掛けやすい環境を提供していただきたいことから、出来るだけ早い段階でイオンモールの中まで入れるルートを整備していただきたい。

【座長】

買物難民の増加も今後の課題でもあり、県内のある地区では、住民協議会を数十回開催し、どこにバス停が必要なのか、どのルートが適当かを検討し、最終的には市から運行業務の委託という形で調整していることや、地元で運転手を雇用し、買物バス以外に、通院・通学も含めた形での運行を目指しており、この圏域でも今後、このようなことが課題となってくることから、三岐などの民間交通機関との組み合わせや、イオンなどの企業や住民参画のもと仕組みをつくる必要があり、旧員弁郡定住自立圏の圏域内の公共交通の連携計画も明確に位置づけて、第2次共生ビジョンの策定を行う必要がある旨を説明

【委員】

「資料3」P29の「人材の育成」について、非常に良いことだと考えるが、PR方法についてはどう考えているのか。

【事務局】

現在は、定住自立圏の圏域職員が研修を受けているが、今後事業を追加する中で、広報誌やホームページなどを利用し、広くPRを行う旨を説明。

【座長】

他にない様なので、平成25年度共生ビジョン改訂(案)については、可決とさせていただく。

～ 第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンについて ～

【座長】

次第「9. 第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン」について、事務局より説明を求める。

【事務局】

資料4「第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン策定スケジュール」について、現行の共生ビジョンは、平成26年度までの計画であり、今後のいなべ市、東員町との連携強化を図るため、共生ビジョンを継続しようと考えていることから、平成27年度から始まる第2次旧員弁郡共生ビジョンの策定業務を平成26年度から行いたい旨を説明。

【座長】

平成26年度に、現在の共生ビジョンの計画が終了することから、現在の事業を検証するとともに、平成27年度からの新たな圏域の課題を洗い出し検討していく必要がある旨を説明。

また、本日の会議などは、定例的な報告や勉強会(講演会)が中心であったが、来年度は、共生ビジョンについての議論が中心になることから、委員に対して協力を求める。

【座長】

次第「7. 報告事項」及び「9. 第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン」について、再度質疑を

求める。

【事務局】

次第「8. 共生ビジョンの改訂」で審議いただいた内容を含めた「旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン(平成25年11月改訂版)」について、後日送付させていただく旨を説明。